

平成25年度 鳥獣被害対策（ニホンジカ）

アンケート調査報告書

対象者：職員＋入林者



罠いワナの中に取り込んだシカ

中部森林管理局

ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム

平成26年6月

はじめに

ニホンジカをはじめとした野生鳥獣による被害は、農林業被害のみならず高山帯における貴重な高山植物など、生態系に及ぼす影響も深刻化し、生物多様性保全の観点からもその対策が急務となっています。中部森林管理局では、局内に「ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム」を設置し、情報共有や具体的な対策を検討しているところです。

「ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム」では、この取組の一環として、森林・林業の最前線で業務を行う中部森林管理局の職員と造林、治山事業等で国有林に入林される方に対しニホンジカ被害の実態や対応策に関する考え・アイデア等をアンケート調査により収集することとしました。アンケートの実施状況は、局・署の職員を対象にした者347名、造林や治山事業等の入林者を対象とした者282名から回答がありました。

なお、回答にあたっては無記名としました。

その結果、ニホンジカを見たことがあるかの問いに対し、職員の48%、入林者の71%があると答え、また、被害を見たことがあるかの問いに対して、職員の71%、入林者の40%があるとの回答でした。目撃情報では、昨年調査と比較してシカの生息地域が、中部森林管理局管内に広がっていることが分かりました。

平成24年度と同様の項目でのアンケートではありますがアンケートの対象者を入林者まで広げたことで、目撃情報や被害の態様などについて、より有益な情報が収集できたと考えられます。

詳細については、以下ご覧ください。

1 アンケート調査方法及び内容

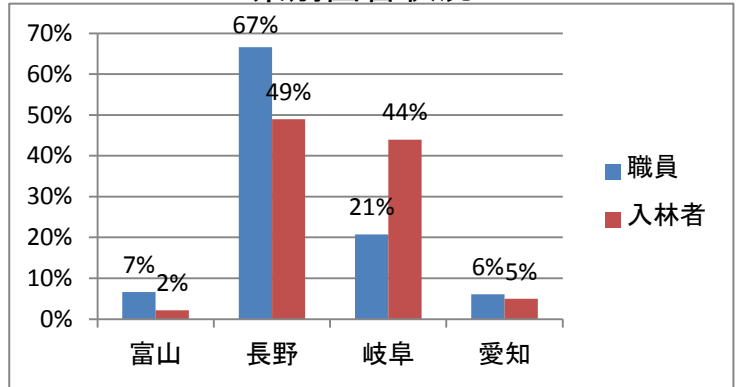
平成24年度に実施したアンケートと同じ内容で職員及び入林者にアンケートを依頼して実施した。
アンケートの内容は、付属資料のとおり。

2 回答状況

県別アンケート回答者状況

県名	職員	入林者
富山県	23	6
長野県	231	138
岐阜県	72	124
愛知県	21	14
計	347	282

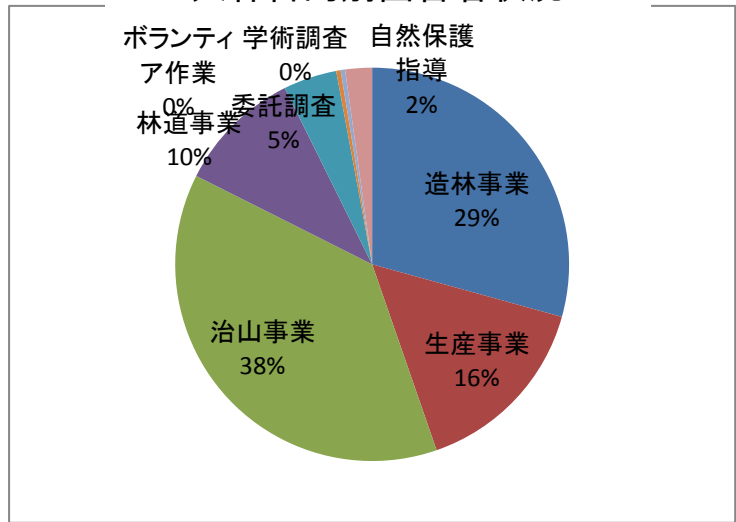
県別回答状況



入林目的別回答者状況

入林目的	回答者数
造林事業	80
生産事業	42
治山事業	103
林道事業	28
委託調査	12
学術調査	1
ボランティア作業	1
自然保護指導	6
その他	9
計	282

入林目的別回答者状況

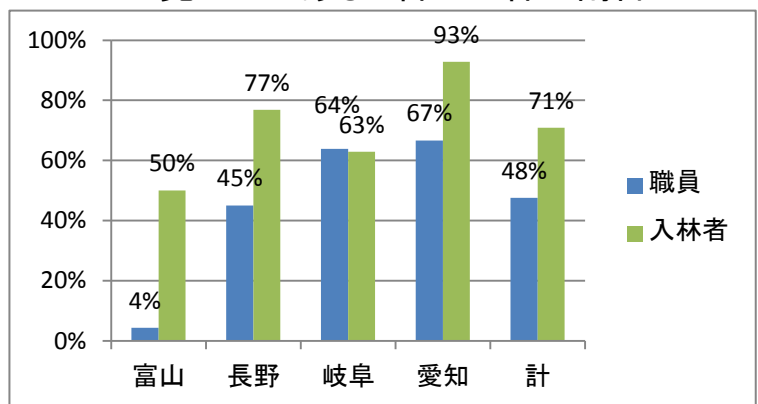


3 アンケート結果

問 1 あなた又は貴社の方で、過去1年間にニホンジカを見たことがありますか。

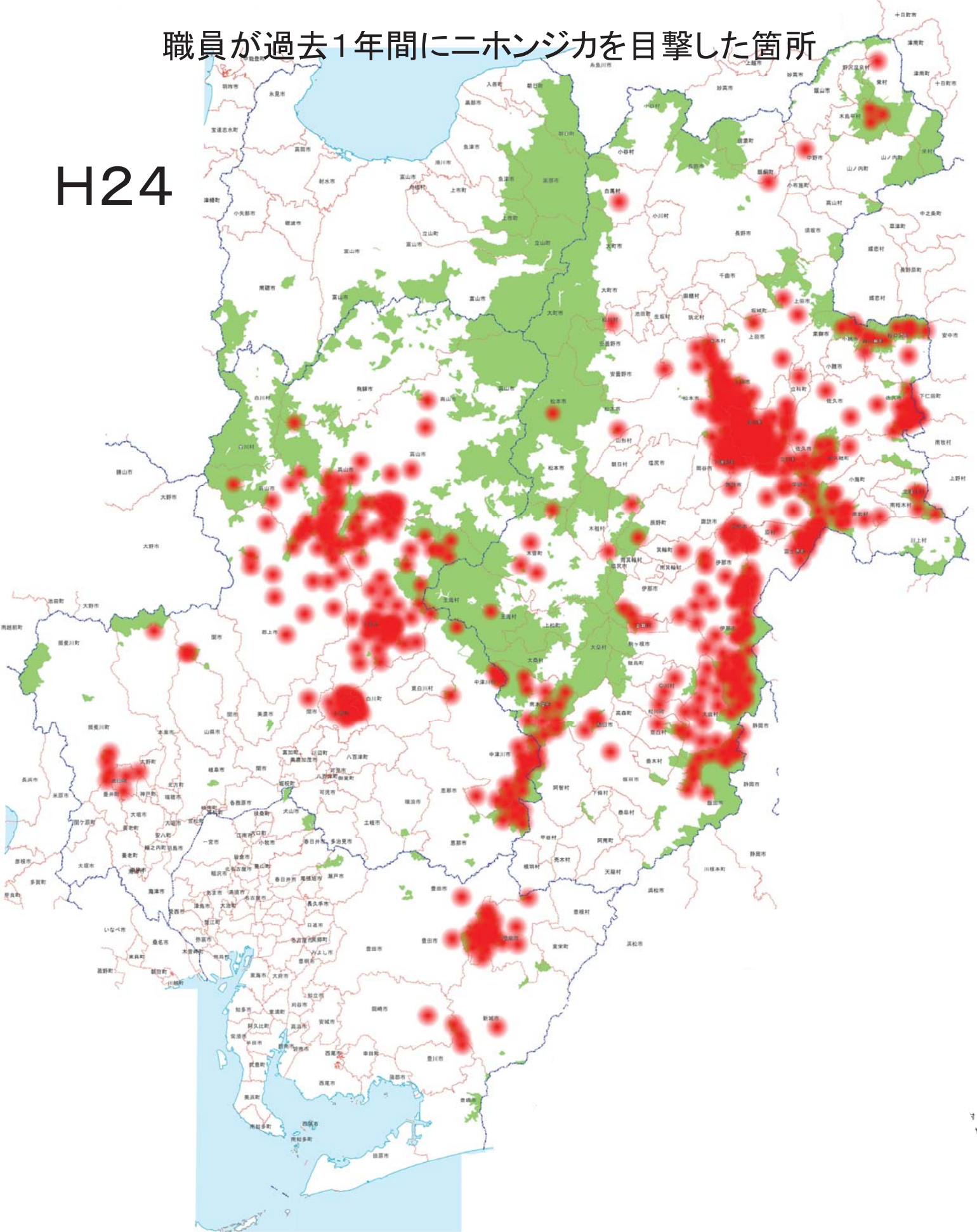
県名	職員		入林者	
	ある	ない	ある	ない
富山県	1	22	3	3
長野県	104	127	106	32
岐阜県	46	26	78	46
愛知県	14	7	13	1
計	165	182	200	82

見たとがあると答えた者の割合



職員が過去1年間にニホンジカを目撃した箇所

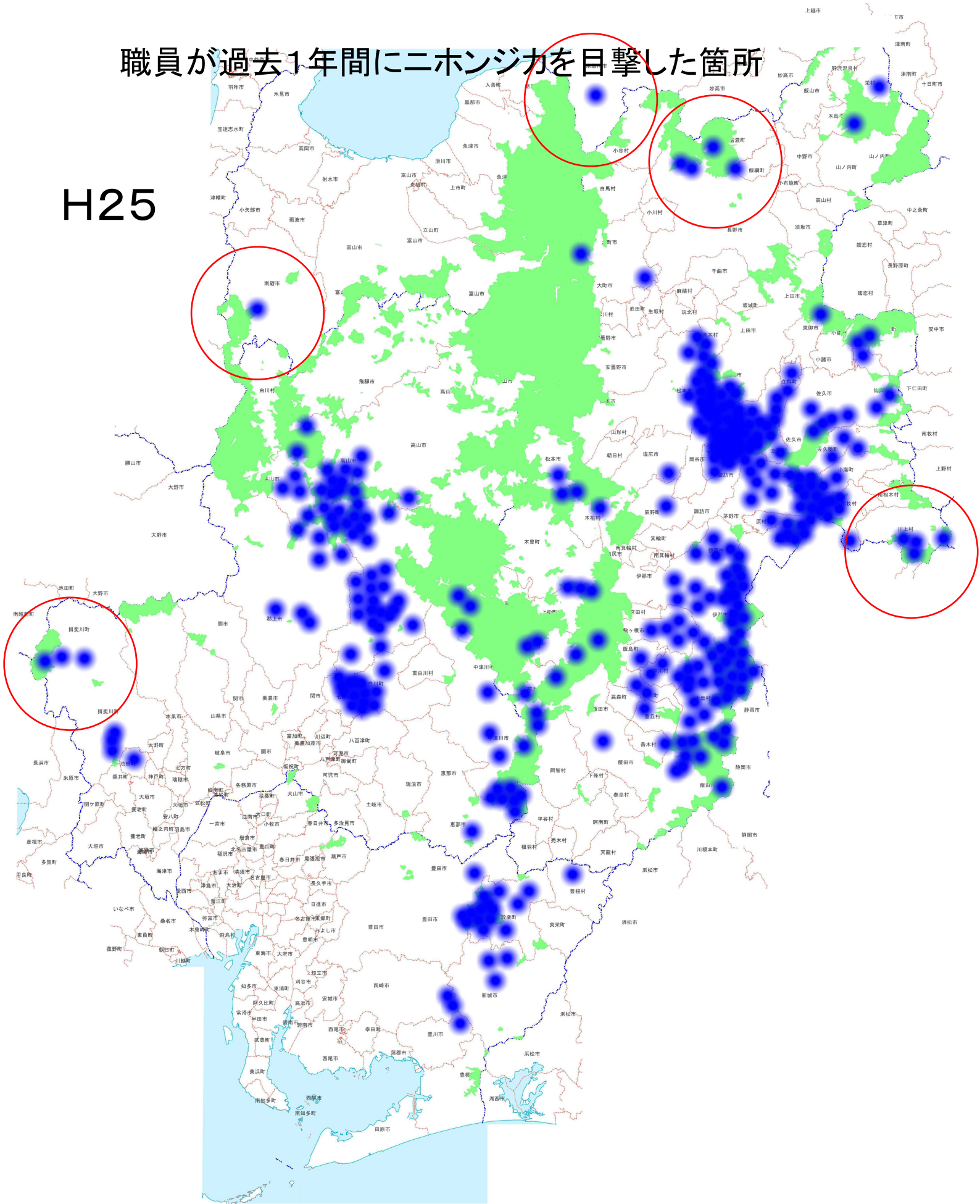
H24



凡例 ● : 目撃箇所を半径2 kmの円で表示

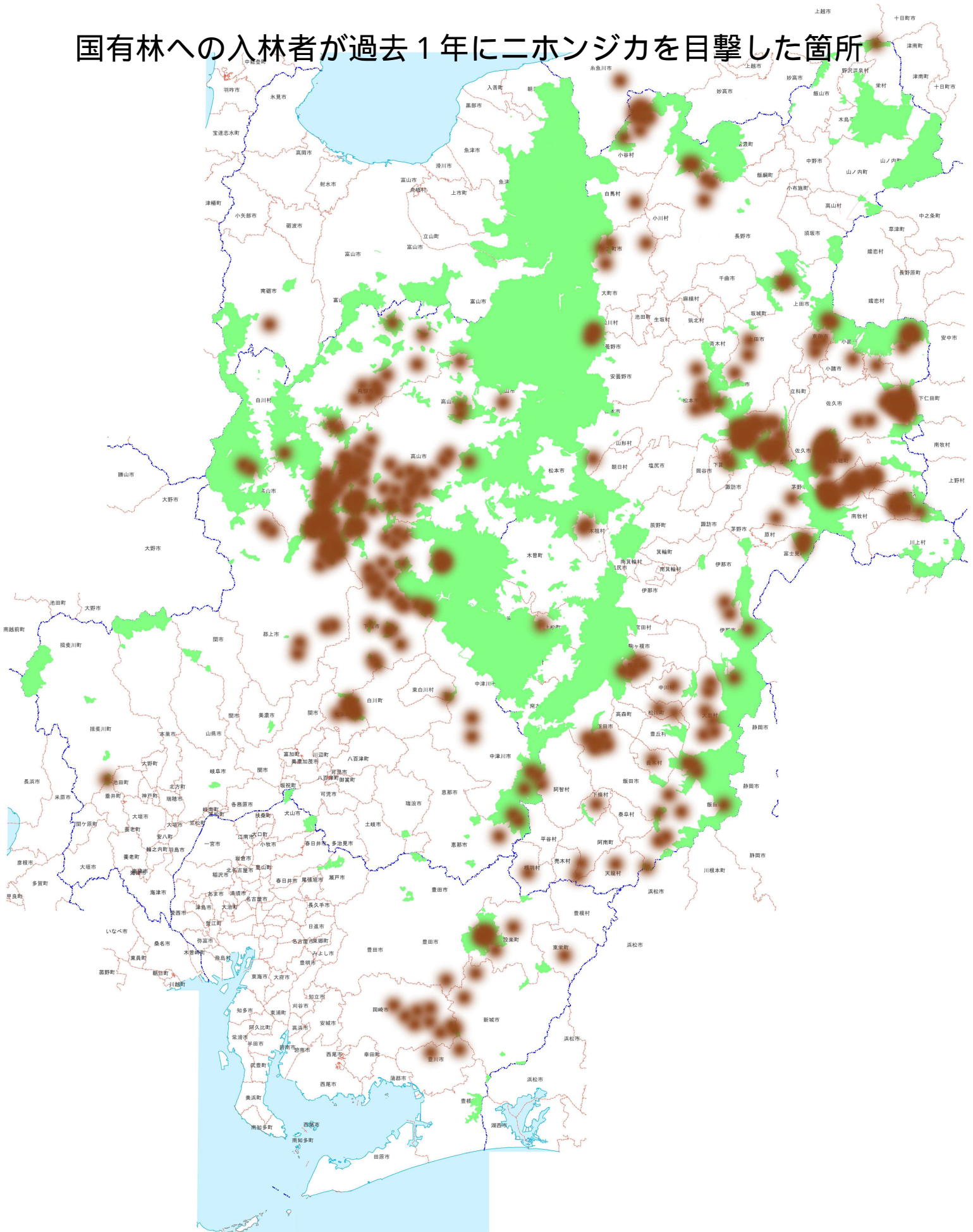
職員が過去1年間にニホンジカを目撃した箇所

H25



○印は新たに目撃情報があった場所

国有林への入林者が過去1年にニホンジカを目撃した箇所



問 2-1「国有林」以外でニホンジカを見た場合は具体的な場所や地名を記入してください。(複数回答可)

① 職員

347人中108人と答え、124箇所を目撃地点情報がありました。

② 入林者

282人中152人と答え、194箇所を目撃地点情報がありました。

問 2-2「国有林」でニホンジカを見た場合は森林管理署名、国有林名(わかれば林班名)を記入してください。(複数回答可)

① 職員

347人中118人と答え、201箇所を目撃地点情報がありました。

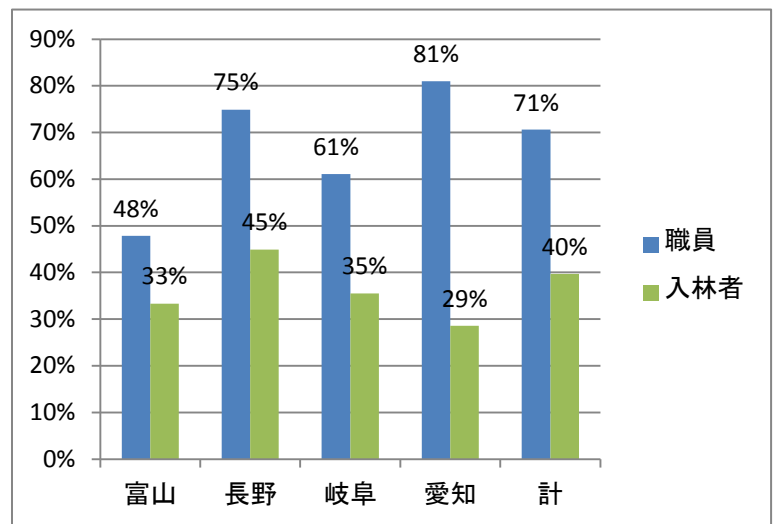
② 入林者

282人中116人と答え、164箇所を目撃地点情報がありました。

問 3 あなたは山に行つてニホンジカの被害を見ましたか。(見たことがありますか)

県名	職員		入林者	
	ある	ない	ある	ない
富山県	11	12	2	4
長野県	173	58	62	76
岐阜県	44	28	44	80
愛知県	17	4	4	10
計	245	102	112	170

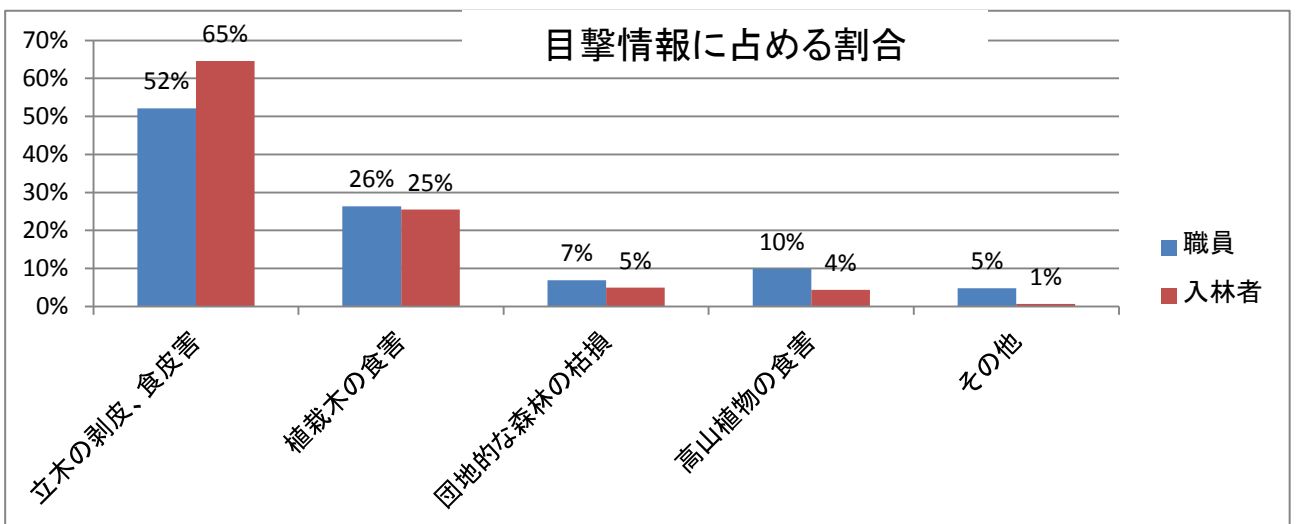
見たことがあると答えた者の割合



問 4 問3で「はい」と回答された方に伺います。それはどのような被害でしたか。(複数回答可)

県名	立木の剥皮、食皮害		植栽木の食害		団地的な森林の枯損		高山植物の食害		その他		計	
	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者
富山県	11	2	4								15	2
長野県	163	60	69	19	28	4	38	5	16	1	314	89
岐阜県	33	39	29	19	1	3	4	2	4		71	63
愛知県	13	3	9	3		1					22	7
計	220	104	111	41	29	8	42	7	20	1	422	161

目撃情報に占める割合



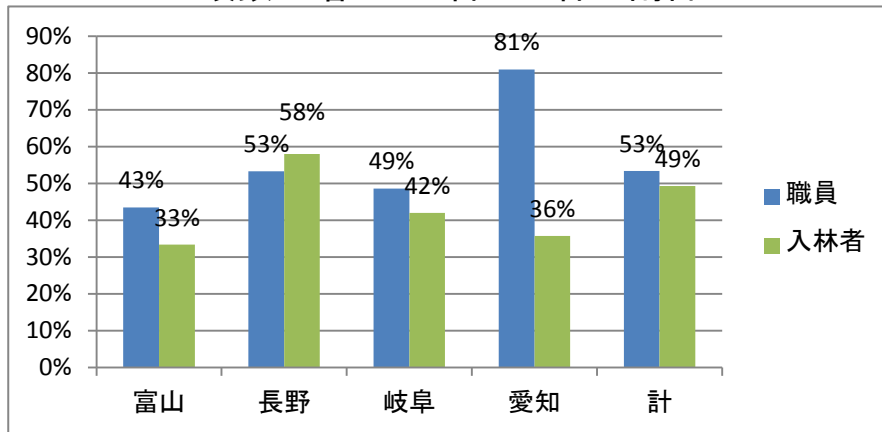
問 4-2 問4で「その他」と答えた方の具体的内容(主なもの)

- ① 職員
 - 植栽木以外の草本の食害
 - 水芭蕉の食害
 - いわゆるディアラインの形成(シカの届く範囲の枝葉が消失している)
 - 食害及び獣道が起因する土砂流失
 - 林道法面緑化箇所の食害
- ② 入林者
 - シカを見かける回数が増えた。
 - 生息範囲が広がった。

問 5 最近「国有林」でニホンジカの頭数が増えていると思いますか。

県名	思う		思わない		わからない		計	
	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者
富山県	10	2	1		12	4	23	6
長野県	123	80	12	3	96	55	231	138
岐阜県	35	52	4	4	33	68	72	124
愛知県	17	5			4	9	21	14
計	185	139	17	7	145	136	347	282

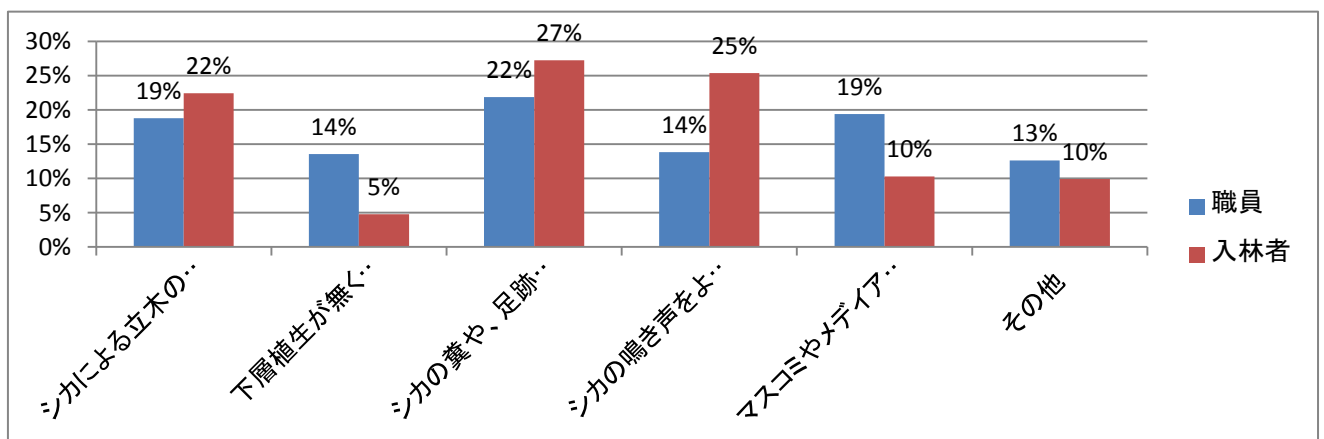
頭数が増えたと答えた者の割合



問 6 問5で「はい」と回答した方に伺います。具体的にどのようなことから増えていると感じていますか。(複数回答可)

県名	シカによる立木の剥皮が多くなった		下層植生が無くなった		シカの糞や、足跡を見かけることが多い		シカの鳴き声をよく聞く		マスコミやメディアを通じてそう感じた		その他		計	
	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者	職員	入林者
富山県	1	1			1		1		6	1	5	1	14	3
長野県	52	36	35	10	47	46	33	46	42	19	27	11	236	168
岐阜県	5	23	6	3	17	27	6	21	10	8	7	12	51	94
愛知県	3	1	3		6	1	5	2	5		2	3	24	7
計	61	61	44	13	71	74	45	69	63	28	41	27	325	272

増えていると感じる理由に占める割合



問 6-2 問5で「その他」と回答した方は具体的内容を記入してください。(主なもの)

① 職員 (H25)

- 市民からの目撃情報を聞いたから。
- 実家(岐阜県)の近くでは、民家の近くで目撃されたり畑の農作物の被害が増えている。
- 成長試験、植生回復試験など継続調査している箇所への食害被害の多発が見られる。
- 国道等での事故被害
- 30~40年前なら現場に出ても年に数回しか見かけることがなかったが、今は毎回のように見かけるから。

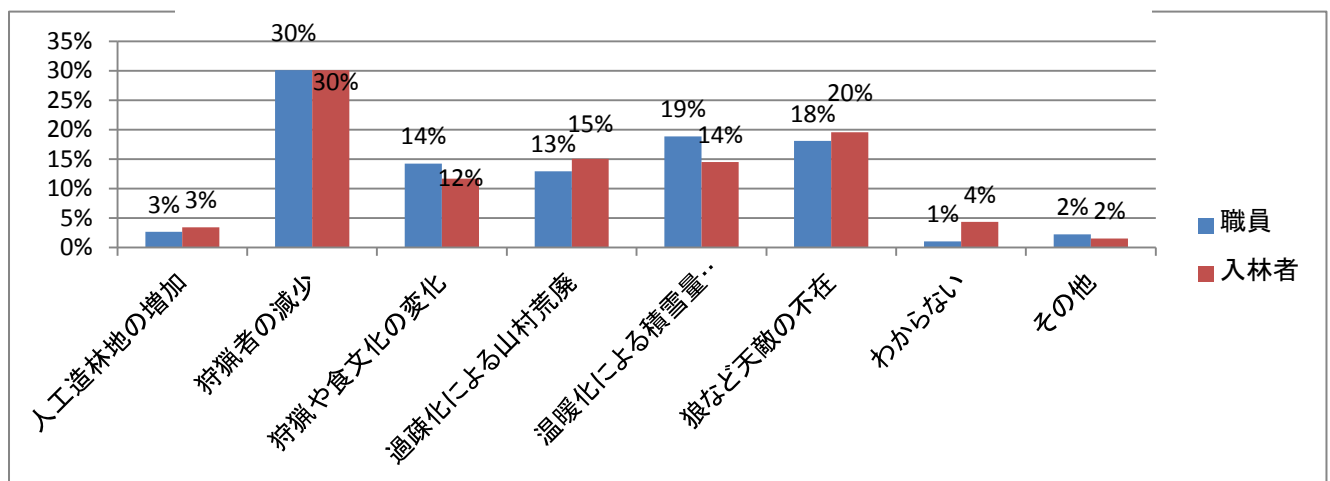
② 入林者

- 岐阜県では飛騨南部までが生息域と言われてきたが富山県境まで広がってみられる。
- 実際にシカの群れを見た。放牧されている家畜かと思った。

問 7 全国的にはニホンジカが増えているといわれていますが、その理由は何だと思えますか。(複数回答可)

項目	職員	入林者
人工造林地の増加	24	18
狩猟者の減少	273	160
狩猟や食文化の変化	129	62
過疎化による山村荒廃	117	80
温暖化による積雪量の減少(生息環境の変化、死亡率)	171	77
狼など天敵の不在	164	104
わからない	9	23
その他	20	8
計	907	532

増えていると思われる理由に占める割合



問 7-2 問7で「その他」と回答した方は具体的内容を記入してください。

① 職員

- 法律改正以前のメスジカ捕獲の規制。
- 広大な牧草地の不適切な管理、ゴルフ場、スキー場の管理、大規模な高原野菜等の出荷できない野菜の放置等これらによる生息環境の変化。
- 暖房等の石油燃料への依存により、森林利用が変化し、森林の若齢広葉樹の比率の拡大による頭数の増加が植林木被害及び広域化に至ったのでは。
- 狩猟者の高齢化、ニホンジカの繁殖能力、ニホンジカの狩猟期を察知する能力(狩猟期になると見かけなくなるため)
- 個体数調整が遅れ、頭数が増えすぎたため対策が追いつかない

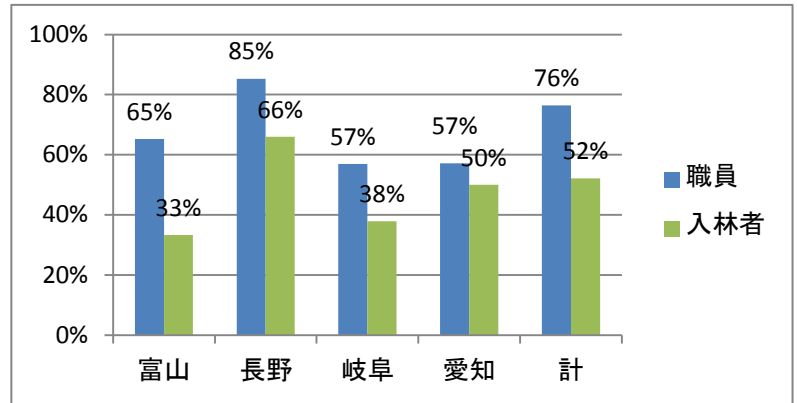
② 入林者

- 地球の温暖化、全体から人間活動による環境悪化。
- 高速道、新幹線工事によるシカ群れの移動。
- 法律でメスジカの捕獲規制がなされていた時期があったこと。
- 人が山には入らなくなった。
- 天然林の伐採。

問 8 あなたは、ニホンジカの肉を食べたことがありますか。

県名	職員		入林者	
	ある	ない	ある	ない
富山県	15	8	2	4
長野県	197	34	91	47
岐阜県	41	31	47	77
愛知県	12	9	7	7
計	265	82	147	135

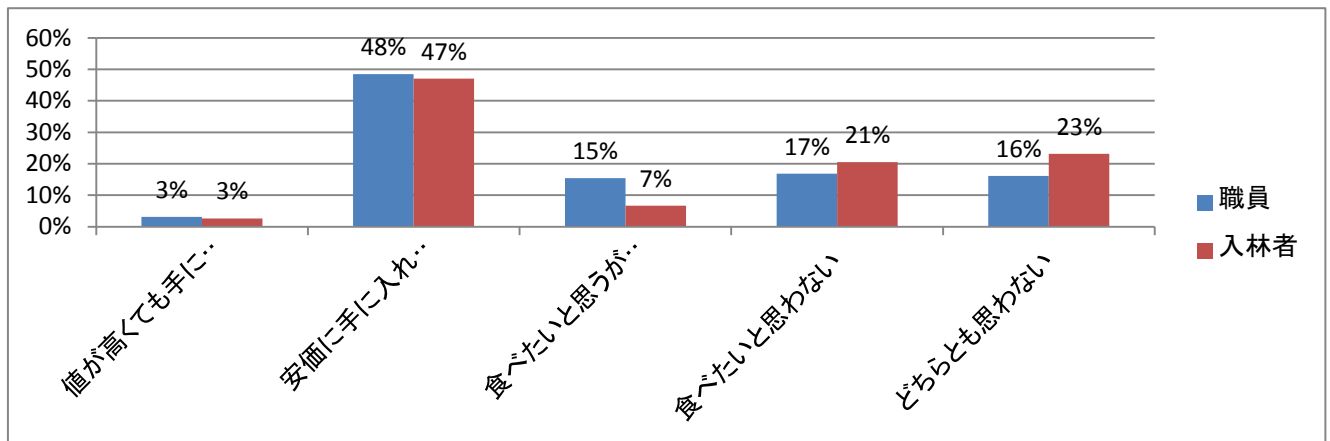
シカ肉を食べたことがある者の割合



問 9 問8で「食べたことがある」と回答した方に伺います。あなたは引き続き、シカ肉を食べたいと思いますか。(複数回答可)

項目	職員	入林者
値が高くても手に入れられれば引き続き食べたいと思う	9	4
安価に手に入れれば食べたいと思う	141	71
食べたいと思うが調理方法がわからない	45	10
食べたいと思わない	49	31
どちらとも思わない	47	35
計	291	151

引き続きシカ肉を食べたいと思う理由に占める割合



問 10 ニホンジカの捕獲を増やすためには、食肉利用の普及を進める必要があると言われていますが、効果的な方法がありましたら、あなたのご意見・アイデアをお聞かせください。

① 職員 回答者数106名。

- 都心部でジビエ料理の試食会を開催する。
- 有名レストランとのコラボ。
- 公共施設の食堂等での使用を強く求める。ヘルシーである等良いイメージの発信。
- 大手スーパーや外食産業に流通できる体制を整える。
- 国が食肉に対して費用を何割か負担し、消費者が購入しやすい価格帯になるようにする。豚肉や鶏肉の価格帯だと買いやすい。
- 調理方法の実演の場を増やす。
- まずは、親子参加の試食会の開催等により、食べる機会を増やし、ニホンジカの肉に対する違和感をなくすようにすることが必要。将来的には学校給食への使用も検討。
- ニホンジカの食肉としての知名度を上げ、一般的にも身近な食肉とする必要がある。スーパー等に調理方法と合わせて販売等。加工(ハム、ソーセージ等)すれば、一般的にも食しやすいのでは。学校給食等の献立に入れ、食育の中で説明、子供のうちから身近に感じてもらえば良いかと。
- 獣肉処理施設を普及させ、猟師がニホンジカを処理施設に持っていきやすい仕組みがあれば良いと考えます。

- 10 ニホンジカの肉の特性の広報。他の肉とかわらない価格の設定。安定的な肉の供給体制と販売拠点の整備。シカからバンビを想起させない戦略。
- 11 6次産業化の利用。
- 12 被害が増えていることを含めシカ肉をもっとアピールする。
- 13 食肉処理過程の規制緩和、処理場の整備。野生生物に対する食肉加工の技術の向上。「業」として成り立つ狩猟。海外のようにジビエ料理の普及、ブランド化。
- 14 ジビエ料理の普及。
- 15 需要拡大に向けた啓蒙活動。(より多くの人に食べてもらう)安定供給と流通の確保(持続的にいつでも手に入る状況を作る)
- 16 テレビや新聞で広くPRする。
- 17 肉や加工食品が安く供給できるような対策を講じる。
- 18 TV等により、おいしいお肉である事を紹介。
- 19 今、一部地域で食用として実際取り組んでみえますので、広くPRしていただくことや、宅配による販売拡大などの取組をされたらどうかと感じました。
- 20 都市部のイベントで、無料試食会を数多く開催すること。
- 21 マスコミやメディアを通じての、消費者が「食べてみたい」と思い、売っていたら「買おう」と思うような戦略。ニホンジカの数を減らしましょうというPRでは無く、女性誌ではオシャレなお店や料理の紹介・テレビ番組ではジビエ料理として紹介してもらうような取り組み。一般の人が多く集まる食の祭典(B1グランプリなど)への出店。
- 22 テレビやネット等で合法的に宣伝をする。
- 23 肉があれば食べてみたい人は多いと思います。採算は合わなくともイベントなどで販売や試食会を行ってリピーターを増やすことや、被害のアピールをすることが良いと思います。
- 24 特有のにおいや臭みをどう消すかが重要だと思う。
- 25 エゾシカの缶詰を食べたことがある。缶詰なので長期保存もでき、そのまま食べることもできることから利用しやすかった。
- 26 あばら骨付きのまま炭火で焼き、塩こしょうのシンプルな味付けで、B級グルメとして販売すると売れそうな気がする。(1本100~200円くらい)
小さい頃シカ肉をよく食べていたが、一番おいしい食べ方だと思った。
- 27 コンビニ等でシカ肉を用いた弁当などがあれば、気軽に食べてみようと思う人も出てくるのではないかと思います。
- 28 利用しやすい状態(処理済み)で入手できると、利用拡大が進むのではないかとと思われる。(スーパーで、牛や豚と同じように)
- 29 メニューと一緒にシカ肉を売るとか。いっそ無料提供する。
- 30 道の駅での大々的な販売。
- 31 「ご当地限定」などを宣伝文句で、ハンバーガーなど手軽で食べやすい製品にしたり、「シカの巨大ハンバーガー」や「シカステーキ」なども目を引くかもしれません。
- 32 大口流通の確保(輸出など)、安全面の対策強化。
- 33 地産地消の推進やブランド化の推進。食肉加工場の整備。
- 34 家庭調理では味噌漬けや醤油漬けに加工したものを野菜等と炒めて食べる方が食べやすいと思う。
- 35 山小屋や森林リゾート地におけるジビエ料理の提供。ドラマやアニメ等でサブリミナル的にジビエ料理を登場させる。有名シェフによるレシピの考案。
- 36 シカハンバーガー、シカ肉の燻製。
- 37 家畜や動物園の飼料に利用できないか。
- 38 全国一律で月に一度(もしくは2~3ヶ月に一度)は給食でシカ肉を提供する。(子供の頃からの食事で大人になってからも食べたいと言う人が出てくるかもしれないため)遊園地などの売店でシカ肉を提供する。(理由は上に同じ)ただ、豚・鶏・牛と比べ特段美味とは言いがたく、人間の食肉用に大規模展開するのは難しいとも考えられるので、動物園の飼料用として、ドッグフードの原料として肉を利用してはと考える。
- 39 学校給食で使用する。
- 40 居酒屋等のメニューに加える。
- 41 おいしく食べられる調理法を広め、店頭で並べられるよう取り組むこと。
- 42 シカ肉について一つでも定番レシピ(ご当地メニューなど付加価値を付ける)があると消費量が増えると思う。
- 43 局、署の広報、ホームページ等にシカ肉料理の調理レシピやシカ肉販売店、シカ肉料理を出してくれるお店を掲載する。
- 44 近いところに加工センター等を作り、ニホンジカを1箇所を集め、定期的に捕獲、食肉にしたらどうか。
- 45 シカ肉料理のコンテスト。
- 46 調理メニューの開発、一般市民に対する啓蒙活動と継続的なレシピの情報提供。
- 47 食肉としては、余り需要が増えるとは考えられない。捕殺シカの買い取り制度。
- 48 学校給食への利用。
- 49 地域と連携し捕獲後の流通ラインを構築すること。(ジビエの作成・販売)
- 50 外国への輸出。(高級肉と低価格肉に区分して輸出)

- 51 捕獲、食肉利用を進めるには、市町村の行政区画単位を超えた取組が必要。牛や豚等の処理センターと同様の施設を設け、生け捕りしたものを安定供給する仕組みづくり。(食の安全からしても、処理過程における安全確保が必要。)おいしく食べる方法は、その道のプロや料理コンテスト等の実施により普及できる。
- 52 道の駅、個人食堂、ファミリーレストランでの調理販売。
- 53 食肉として、高くてもいいから食肉売り場に並べて、目に見える形での普及に取り組んだらどうでしょうか。料理方法も添えて。
- 54 加工品を食べたことがあり「シカジャーキー」(ビーフジャーキーのような加工品)が大変おいしく大人のおつまみとして良かった。
- 55 イベント等における鹿肉の試食会、鹿肉(ひき肉にして使いやすくして)の無料提供を行い、鹿肉を食す機会を増やす。
- 56 全般的にパサパサ感があるので、1週間くらいニンニク等の入った焼肉のタレに漬けておいて、その後唐揚げにして食すると美味。
- 57 ニホンジカはヘルシーではありますが、通常の料理法では美味ではないので、安くておいしい商品の開発、提供と流通がなければ普及は望めないと考えます。酒もしくは炭酸飲料で長時間煮込むと柔らかく、出汁が染みこみおいしい料理ができるのではないかと思います。
- 58 ハンバーガー等。
- 59 市町村と連携し、鹿肉を地域の特産品として売り出しPRする。食べやすいのは鹿肉の燻製やサラミ。また、鹿肉の加工センター等の設置も必要。鹿肉の調理方法を知らない人が多いため、レシピをHP等で公開する。
- 60 薫製、ハムなどに食べやすく加工する。
- 61 大手、外食チェーン店と連携する。
- 62 学校給食に利用してもらう。スーパー等に安価で並べる。試食コーナーを設ける。
- 63 プロが調理したものを、昼食・夕食のおかず用に関係職員へ無理に高値で買わせる。(私が食べたいから)うまくいくようなら、民間会社などの職員向けにも価格を調整して注文を取ってみる。
- 64 海外でシカ類の肉を食べる国があると聞いたことがある。そういった国の料理を真似てみるといいかもしれないと思いました。
- 65 需要がなければ供給がないので、「海外への輸出」、「薬品又は健康機能維持食品の開発」等の民間活力が重要か。
- 66 食肉の利用が一部の地域の取組みとなっていることから都市圏の消費者ニーズを踏まえた、都市部とタイアップした普及が必要と考える。
- 67 レストランのメニューで、シカ肉を利用したものをもっと宣伝する。
- 68 精肉店で販売する。安価でなければ消費につながらない。
- 69 食肉利用では、限界があると思われるので、戦時中特に利用度の高かった毛皮等の皮革製品としての利用が現実的だと思われる。
- 70 ペットフードに。
- 71 なにも人間のみが食用利用するのではなく、動物園などでも食用利用を進めたらどうか。
- 72 外食産業での利用を進める。(ココイチのカレー店で販売している地域もある)
- 73 地域のイベントや行事(マラソン大会など)で豚汁やそばなどを提供することが多いが、味付けを工夫するなどして鹿汁として提供することを働きかける(ヘルシーさのアピールなど)のも一案ではと思います。
- 74 ジャーキーなど調理しなくても食べられる物を開発し、地域で名産品として売り出す。
- 75 鹿肉は特においしいとは思わないが、以前燻製したものを食したさい、酒の摘まみによいと感じた。
- 76 シカ肉料理のレシピ等の紹介を行う。
- 77 給食での提供。森林教室、試食会などを通して、味になじむ機会をつくる。特産・ブランド化して宣伝する。解体処理場の整備。今後の捕獲・消費のために、メディア等を通して若い人の関心をより高める。
- 78 食料難地へ援助。
- 79 ジビエ料理を提供するレストラン等への安定供給。健康に良いなど付加価値をつけたPR。
- 80 鹿肉販売店の増加を図る。
- 81 安定供給。
- 82 加工施設設置の補助制度。
- 83 シカ肉を保存する施設に冷蔵庫の電気代がかなりかかると思います。行政の補助が必要と思われます。
- 84 シカ肉を安価に購入できること。
- 85 助成金(免許・銃器等の取得、捕獲に対する報奨金等)の充実。
- 86 シカの行動を把握して、越冬地などシカが集まる箇所(箇所)に罠を設置し捕獲を行う。
- 87 狩猟者への補助金を増やす。鳥獣保護地域を減らす。
- 88 狩猟者を募集し地元精通者がガイドとして案内する。
- 89 解体施設の建築補助や施設維持への支援策、解体施設の利用促進。
- 90 路網の拡充。森林整備利用の一環で、餌付けポイントプラス罠による集団での捕獲、搬出のしやすさの確保。準天然牧場の多数配置により、国有林別による一定サイクルによる捕獲により安定供給。
- 91 罠い罠、追い込みにより生きたままのシカを捕獲して、定量的な肉の供給の確立。特に美ヶ原地域では罠い罠・追い込み罠が具体化できることと生息頭数が膨大なことから、解体所との連携により市場への肉の流通が可能。

- 92 ニホンジカの買値を高くする。
- 93 くくり罠を増やし捕獲すること。
- 94 国や県、関係市町村から助成金が出ていますが、ハンターの商売人が出るくらいにならないとニホンジカ減少には繋がらない。但し、商売人が発生すると本末転倒の事故等が危惧される。本当に美味しい料理が少ない。供給量、販売価格、需要量等のバランスが安定的に保てない現状では食肉の利用拡大は困難を極める。行政機関では無く、そろそろ民間業者が率先した運動に移行しない限り需要拡大も困難である。長野県がニホンジカ移動ルートを調査したが、これを遮断し捕獲に活用できる検討がされたのか知りたい。
- 95 食肉利用の普及を進めても限界があると思う。衛生的な問題、手間暇をかけて解体と加工をしないとイケないため。動物の餌用だとそこまで気を遣わずに解体等できると思う。
- 96 迅速に共同で食肉加工ができる場所での施設の設置と販売業者との提携が必要ではないかと思います。
- 97 野生のものは菌などが不安。安全の確保など。
- 98 安定供給が出来るようにする。
- 99 1頭当たりの捕獲権賞金(補助?)で、職業猟師(兼業でもこずかいが稼げる)が可能な金額を出す。1頭4~8万円程度。
- 100 スーパーで簡単に手に入れて、豚並の価格になれば食べやすい。
- 101 食肉加工施設等の設置場所の確保(国、地方公共団体からの提供)、助成金拡大、食品衛生法の規制緩和(捕殺後の処理時間等)、安価での流通販売、福祉施設、学校給食への積極的活用等。
- 102 1頭のメスから生まれる頭数が多いことから、薬剤等で頭数制限が出来ないものでしょうか。
- 103 食肉利用にこだわってはいは対策がますます遅れる。
- 104 捕獲からしめ方、精肉になるまでの適正な方法により、美味しい食肉とすることが利用につながるのではないかと思う。
- 105 猟師の保護育成。(補助金の増額等)
- 106 人口がどんどん減って行く中で、食肉利用といっても微々たるもの、「捕獲を増やすためイコール食肉利用」なんて言ったらいつまで経っても数は減らないと思います。
- ② 入林者 回答者数103名。
- 1 シカ肉の調理方法等を、広報などに載せ大勢の人に知ってもらう。
- 3 ハンバーグにする。
- 4 食肉加工所の設置。
- 5 シカの刺身は非常に美味しいので広めたら。
- 6 利用方法の増大。賞金を多くする。
- 7 食肉利用の促進
- 8 焼き肉屋が出す。馬肉とまぜて出す。
- 11 行政が努力して狩猟者を増やす。
- 12 ある程度ワナを増やす。
- 13 加工品(缶詰、カレー)、焼き肉。
- 14 加工品(ハム、ソーセージ)。
- 15 狩猟を増やす。
- 16 ペットフードまたは家畜の飼料に利用する。食料の豊かな時代シカ肉の食用は難しい。
- 17 狩猟を増やす。
- 18 試食会等を積極的に行い、専門店などが出てくるようになれば良いと思います。
- 19 ジビエ料理を増やして一般的な食物にする。
- 20 牛串ではなく、鹿串を商品開発する。
- 21 鹿の調理方法が分からないため、手軽に味わえるように、祭典を行ってはどうか。
- 22 食品系の学科のある学校に協力してもらう。食肉利用
- 23 手頃なファーストフーズ(ハンバーガー)に調理して若者、特にスノーボードなどで遊びに来る若者にPRする。
- 24 もっとアピールする。
- 25 多くなれば捕って殺し、少なくなれば保護してかってなものだ。カモシカも今では凄く増え、被害も多くなってきているが、人が決めたことで捕獲できない。間抜けな状態になっているが、命というものは動物によって価値が違うのか。
- 26 高級食材として、都市部に流通させる。フランス料理のジビエなどで。
- 27 メディアを利用。
- 28 調理方法の工夫。
- 29 缶詰(北海道のジビエ缶詰)。
- 30 ジビエ料理の普及。
- 31 猟師を増やす。
- 32 調理方法の宣伝を各所で開催する。猟友会と協力してもっと宣伝する。
- 33 料理方法の周知。
- 34 狩猟を増やす。ジビエ料理の普及
- 35 ジビエ料理を普及させ低カロリー高タンパクを知ってもらい市場に流通させてはどうでしょうか。
- 36 B級グルメ、焼肉屋、汁もの
- 37 食肉を無料でふるまう。(試食会をする)
- 38 ジビエで町おこし。(村おこし)

- 39 テレビの料理番組で取り上げる。
- 40 シカ肉はあぶら身が少ないので、私はカツカレーの具にしています。
- 41 ペットフードの活用。
- 42 郷土料理を現代風アレンジ、西洋料理風、若年層、ヘルシーをアピール
- 43 ワナをかける。
- 44 アピールする、加工食品として特色のあるものを開発する。
- 45 ニホンジカ以上にイノシシ。
- 46 家畜の肉と混ぜて食べる。
- 47 シカ肉がまず美味しいと思わせることが必要
- 48 ニンニクに漬けブロックのままジャーキーのように焼く。燻製。味噌仕立てにすると臭いはあまり気にならない。
- 49 レストランで試験的にシカ肉を出してみてもは。
- 50 缶詰にして海外へ。
- 51 缶詰加工製品。
- 52 佐久合同庁舎でジビエ料理を出す。
- 53 食品衛生法を改正し肉を店頭並べる。
- 54 高級料理店での使用。
- 55 調理方法、低価格での購入方法。
- 56 動物園の肉食動物の餌、ビーフジャーキーなどに加工。
- 57 動物園の餌。
- 58 動物園の餌。
- 59 動物園の餌、ハムなどに加工して販売。
- 60 佐久地域に解体処理施設を設置、動物園の餌として供給。
- 61 佐久地域に解体処理施設を設置。
- 62 狩猟者、加工者、消費者へと流通網の確立。
- 63 ソーセージ等の加工肉への利用、祭り等の屋台で販売。
- 64 食肉として手軽に入手できるようにする。
- 65 ドッグフードへの利用。
- 66 衛生的かつ安価でスーパーなどに並べる。
- 67 シカ肉バーガーを普及すれば手軽に口にしてもらえるのでは。
- 68 ヘルシーな肉なので女性にも食べられるよう工夫する。(カツなど)
- 69 イベントを行った時に汁もの、焼き物にして来場者にふるまう。(味噌、こうじ漬けなど工夫して)
- 70 管理署の職員が狩猟を学び実施する。
- 71 シカ肉が買いやすいようにする。
- 72 シカチャンなどのネーミングで焼き肉にする。
- 73 調理法の確立、若い人を狩猟参加できるようにする。
- 74 旅館などで扱ってもらう。精肉するまでのルートの整備。
- 75 美味しいシカ肉料理の研究、商品化
- 76 地域の名物料理として売り出す。
- 77 安く美味しく食べられれば。
- 78 シカ刺をアピールしてはどうか。
- 79 調理方法の工夫が必要。
- 80 食肉加工所の設置。
- 81 初めて食べて美味しいと思った。調理方法と食べてもらう機会を増やして普及させる。
- 82 学校給食などにジビエ料理を提供。
- 83 捕獲、加工施設等の整備。
- 84 北欧風に料理して雰囲気を変える。
- 85 ジビエ料理の普及。肉処理場の設置。
- 86 豚や鶏肉と変わらない値段で売れるように。
- 87 食肉の流通を確立。
- 88 マスコミ等を通じてシカ肉の入手場所や調理方法を伝える。
- 89 食肉の安定供給とB級グルメ化。
- 90 調理方法を教える。
- 91 地域の特性を生かした調理方法を活用。
- 92 ジビエ料理の普及。
- 93 ジビエ普及で対応。
- 94 スーパー等購入できる場所を増やす。
- 95 ジビエ料理の拡大。
- 96 流通量を増やす。
- 97 加工、流通システム。
- 98 食肉の流通ルートの確立。
- 99 取扱店を増やす。
- 100 ペットフードなどの活用。

- 101 狩猟税が高くなかなか免許等を持つことができない。
- 102 肉食獣の餌、缶詰
- 103 地域食材としての利用、普及に力を入れる。

問 11 日常の業務などで山(森林)へ行ったとき、最近の野生生物について何か見たり、変化を感じたりすることがありますか。

① 職員 回答者数87名。

- 1 カモシカの減少。
- 2 兎の足跡が少なくなった。
- 3 野ウサギが見かけなくなった。
- 4 ニホンジカ、イノシシを昼夜問わず見かけることと多くなった。
- 5 カモシカを見かけなくなった。
- 6 山へは行けないです。
- 7 昨年よりニホンジカを見かけなくなった。
- 8 人工林の森林整備が進み、荒れた山を見かけなくなってきた。
- 9 最近野生生物自体を見かけなくなった。
- 10 道路や林道等で蛇(特にまむし)を見かけなくなった。
- 11 被害の割にニホンジカを見かけない。熊の皮剥が増加している。
- 12 イノシシの生息範囲が広がっている。
- 13 猿が増加しており、観光地のものは人慣れしてきている。
- 14 熊が増えている。
- 15 通勤途中で、キツネ、タヌキを1年中見かける。増えてはいないが、人家近くに定着していると感じる。
- 16 クマの立木に対する剥皮被害が場所により非常に多く感じられる。
- 17 冬も越冬し食害が増えている。(移動しなくなった)
- 18 八ヶ岳硫黄岳山頂付近でカモシカを見かけた。
- 19 猿が急増している。
- 20 ウサギを見かけなくなった。イノシシをよく見かけるようになり、急激に増えていると感じる。
- 21 熊やカモシカ等も増加しているように見受けられる。
- 22 シカ被害よりも熊被害の方が深刻である。
- 23 猪、猿、狸もよく見かける。
- 24 イノシシが急激に増えている。
- 25 猪の形跡が少なくなった。
- 26 以前よりも山でのクマ目撃数が少なくなっている。
- 27 サルを多く見かける。
- 28 ヒル、ダニが多いです。
- 29 イノシシ・アナグマの生息頭数が著しく増加しているように感じる。
- 30 猪の通った痕がどこでも見かけるようになった。
- 31 イノシシも増えている。
- 32 熊が、人里へ多く出没するようになった。
- 33 熊が増えている。
- 34 ツキノワグマによる剥皮被害が多くなってきている。
- 35 日本サルが民家付近でも見かけるようになった。
- 36 カモシカを見なくなった。ウサギが増えてきた。
- 37 カモシカを見かけなくなった。
- 38 カモシカやサルが里山に増えてきた。
- 39 人との生活界がなくなっている。
- 40 里までサルやイノシシが来ている。
- 41 北アルプス稜線でハイマツのみを食べたと思われるニホンザルの糞をよく見かける。ライチョウの生息に影響が出ないか心配。
- 42 イノシシ等の農業被害が増えている。
- 43 うさぎ、きつねを見かけなくなった。
- 44 猿、イノシシが頻繁に公道を行き来している。
- 45 山林へ入れば、以前に増して糞は何処にでもある。
- 46 ワラビの減少。
- 47 イノシシを見かけるようになった。
- 48 クマの目撃情報やイノシシと遭遇することが多くなった。
- 49 クマ、イノシシの痕跡が非常に多い。
- 50 鹿や狸、鳥の動作が緩慢になっている。
- 51 数年前に、昔と比べて冬にウサギの足跡を見かけなくなった時期がありましたが、最近よく確認できるようになったと感じます。(ウサギが増えつつあるのでは?)
- 52 ニホンジカを見かけるエリアが広がっている感じがする。
- 53 高山での猿、キツネが目立つ。
- 54 ニホンジカだけではなく、熊、イノシシ、カモシカなど野生動物全体が増加しているのではと感じます。

- 55 カモシカを見なくなった、イノシシが増えた。
- 56 カモシカをよく見かける。
- 57 ニホンザル、ニホンジカの日撃回数が急増した。
- 58 里に近いところで日本カモシカをよく見かけるようになった。
- 59 イノシシの穴掘りで、幼齢林木の転倒被害が増加傾向にある。
- 60 猿・鹿・イノシシ・クマ・狸・狐など、野生動物が人間の生活圏をテリトリーとしておりもう野生動物といえるかが疑問である。
- 61 カモシカを住宅地付近でも見るようになった。
- 62 猪や猿の農作物被害が頻繁になっている
- 63 人を恐れなくなってきた感じを受ける。
- 64 野ウサギを見かけなくなった。アナグマを見かけることが多くなった。
- 65 ニホンジカ、イノシシの足跡、フンを多く見かけるようになった。
- 66 ニホンジカが急激に増えている。ウサギを見かけなくなった。
- 67 ニホンジカは今まで見かけなかった場所でも見かけるようになったり、単体で見かけていたものが群れで(5～10頭)見かけることが多くなった気がする。
- 68 野うさぎを見ない。
- 69 タヌキ、イノシシの増加。
- 70 イノシシの増加が目立つ。(黒姫山・霊仙寺山国有林)
- 71 シカだけでなくイノシシや猿も増えている。シカの食圧による生態系の変化はそれらに依存する他の野生生物(鳥類、昆虫など)にも影響大である。
- 72 都市だけでなく、山においてもカラスをよく見かける
- 73 近所の里山で9年目で初めてアナグマを見かけるようになった。
- 74 富山県には以前イノシシもいなかったが、最近では見かけるようになっている。
- 75 ニホンカモシカが増えた。よく見かける。
- 76 ニホンザルを広範囲で目撃するようになった。
- 77 ウサギを見なくなった。
- 78 猿も増えている。
- 79 ニホンザルが増えていると感じている。
- 80 熊が増えているように思う。
- 81 ウサギの足跡や個体を見るのがなくなった。
- 82 カモシカをよく見かける。
- 83 人に対する警戒心が薄れてきている。
- 84 サルが増えている。
- 85 野ウサギや鳥を見かけなくなった。
- 86 ここ5年くらい熊を見かける機会が増えている。
- 87 イノシシの掘り返しを見るとイノシシが増えていると感じる。
- ② 入林者 回答者数135名。
- 1 イノシシがずいぶん高地まで来ている。
- 2 最近、野鳩を国有林でよく見かける。
- 3 猿が増えている。クマの被害が増えている(剥皮)。
- 4 猿が多い。
- 5 野生の猿が、人里近くで見かけるようになった気がする。
- 6 猿、山ヒルの増加。
- 7 イノシシが増えたように思える。松川入に山ヒルが増えた。
- 8 人間が近くにいても逃げない。
- 9 標高の高い場所で害虫を多く見るようになった。
- 10 国有林以外では、野鳥を見かけなくなった。(種類:カッコウ、エゾムシクイ、メボソ) 増えている種類(カワウ) 人家周りで生息する(スズメ、ムクドリ、カラス)
- 11 ニホンジカ、サル、イノシシの生息数が増加していると感じている。特にニホンジカは富山県境まで生息域が広がっている。
- 12 イノシシの掘った跡が多い。
- 13 イノシシの被害が多くなった。
- 14 カラス、イノシシの増加。
- 15 カモシカをよく見る。クマはよく見る年とあまり見ない年がある。
- 16 イノシシの激増。
- 17 イノシシが山を掘っている。
- 18 カモシカ、イノシシが増えている。
- 19 イノシシが増えた。
- 20 カモシカが急激に増えている。
- 21 カモシカを見ない。
- 22 ツキノワグマを多く見かける。イノシシの足跡、ヌタ場を多く見かける。
- 23 ウサギを見かけなくなった。

- 24 大きな変化は感じていない。
- 25 鳥の反応が遅いと思います。
- 26 クマが音には反応しないが、臭いに反応する。
- 27 シカやカモシカが増えている。
- 28 シカが増えている。
- 29 キツネの数が少なくなった。
- 30 カモシカが増えている。
- 31 近年、カモシカ、ニホンジカが増えたような気がする。
- 32 ニホンジカ以外の野生生物を見なくなった。
- 33 カモシカが急増している。
- 34 カモシカが急増している。
- 35 カモシカが国有林以外で、国道の道ばたでよく見かける。
- 36 カモシカが急増している。標高の低いところでも普通に見られる。
- 37 カモシカが増えた気がする。
- 38 シカよりもカモシカの方がよく見かける現場がある。
- 39 専門家に聞けば一番分かるのでは。
- 40 ヘビをよく目にする。
- 41 クマが増えていると思う。
- 42 イノシシが増えている。
- 43 ウサギが少なくなった。
- 44 ウサギを見かけなくなった。イノシシが増えている。
- 45 イノシシ(うり坊)、キジが増えた。
- 46 カモシカはたまに見ます。
- 47 近年、目でクマ、イノシシ、サル、カモシカを見ることが増えた。すべての動物が増えているように思う。
- 48 クマ、サル、カモシカの親子連れ、多数の子供の獣を見かける。クマなんかは人間の気配を感じれば、寄ってこないと思っていたが、最近ではクマの方から、興味を持って近づいてくるような感じがする。
- 49 サル、イノシシが増えた。
- 50 カモシカ、サルが増えている。
- 51 国有林ではないがサルを多く見るようになった。
- 52 野ウサギが少なくなった。
- 53 野ウサギが見られない。
- 54 野ウサギがいなくなった。
- 55 サルが増えた。
- 56 国有林のみならず、イノシシやサルが増えている。
- 57 イノシシ、サルを見かける。
- 58 イノシシが増えていると思う。
- 59 サルが増えている。
- 60 クマを見かけなくなった。
- 61 イノシシが増えていると思う。
- 62 イノシシが増えていると思う。
- 63 ニホンザル、イノシシが増えている。
- 64 サル、イノシシ、カモシカなど市街地でも見かけるようになった。
- 65 イノシシが増えていると思う。
- 66 イノシシが多い。
- 67 野生生物が山から下りてきていると思う。
- 68 ニホンジカが増えている。
- 69 ニホンジカ、カモシカをよく見かけると思います。
- 70 ウサギの足跡が少なくなった。
- 71 里山に下りてくるようになった。
- 72 低地の植物が山地に上がってきているので、動物(昆虫等小動物も含む)も上がってきているのではないかと
思う。
- 73 イノシシ、サルが増えている。
- 74 シカ以上にイノシシが急激に増えている。貴重な湿原の植生等食害が現れている。
- 75 ウサギを見かけなくなった。シカが増えている。
- 76 とにかくシカの数が多くなったと思う。
- 77 ウサギの数が減少。タヌキの足跡が多い。
- 78 ハクビシンが増えた。
- 79 うさぎの数が減少冬にも足跡がまれである、キツネ、タヌキの足跡が多く毎日歩いている、イノシシが多く昨冬
2回出会った。
- 80 見かけなくなった野生生物は特になし。シカだけが増えている。
- 81 カモシカを見かけるようになった。
- 82 タヌキが増えてきている。
- 83 シカの通り道が急激に増えている。

- 84 タヌキが道で引かれているところをあまり見なくなった。シカの群れを見るようになった。
 85 シカが増えている。
 86 キツネを見かけなくなった。
 87 タヌキ、キツネを見かけなくなった。
 88 外来種が増えていると思う。
 89 シカが増えている。
 90 シカを時々見るようになった。
 91 ウサギが減っている。
 92 民家のそばでクマ、イノシシ、シカを年2、3回見ている。
 93 シカ、イノシシの増加。
 94 シカをよく見る。特に大門、和田。
 95 イノシシをよく見る。
 96 イノシシ、キツネが増えた。ウサギを見ることがない。
 97 クマが多い。
 98 ニホンジカのほかイノシシ、カモシカが急激に増えている。
 99 シカは非常に国有林に多く入林するたびに毎日のように見る。
 100 入林するたびにシカを目撃する。
 101 ウサギを見かけなくなった。
 102 剥皮を多く見る。
 103 シカが急激に増えた。
 104 とにかくシカが多い。
 105 ウサギを見かけなくなった。
 106 小グマやカモシカをよく見かけるようになった。
 107 クマの出没が多くなったような気がする。
 108 クマをよく見るようになった。
 109 道路の路肩、法面を掘った跡をよく見る。
 110 ネットを張る、薬剤散布。
 111 カモシカが急激に増えているように思う、クマの出没が少ないように感じた。
 112 リスをよく見かける。ウサギを見かけなくなった。カモシカ、クマは変わりはない。サルは多い。
 113 糸魚川市にもイノシシ、ハクビシン、ニホンザルが増えているように感じる。
 114 カモシカ、クマを見かける。
 115 山鳥を見かける。
 116 イノシシが急激に増えている。
 117 野ウサギを見かけなくなった。
 118 ウサギを見かけなくなった。クマをよく見かける。
 119 サルの急増は感じます。
 120 シカを見かけるようになった。
 121 カモシカを見るようになった。
 122 サルが増えている。
 123 カモシカを見かけなくなった。
 124 ウサギを見かけなくなった。
 125 カモシカが増えていると思う。
 126 木曾地方でニホンジカを見る機会が増えた。
 127 イノシシ、タヌキが多い気がする。
 128 タヌキが増えてきている。
 129 キツネが増え、野ウサギが減っている。
 130 サルが増えた。
 131 イノシシが増えている。
 132 クマの増加。
 133 サルが多くなった。イノシシの痕跡が見られるようになった。
 134 サルを頻繁に見かけるようになった。
 135 カモシカを見かけなくなった。

問 12 鳥獣被害対策で有効な方法がありましたらあなたのご意見・アイデアをお聞かせください。

① 職員 回答者数78名。

- 1 緩衝帯の整備。保安林制度の柔軟な運用により、緩衝帯にかかる皆伐(植栽指定)の緩和により里山での民有地被害軽減。
- 2 狩猟者への捕獲に対する補助金額を増やす。
- 3 県、市町村を越えた捕獲。
- 4 シカの出没する集落に住民総出で笠松式の罟を仕掛けられればと思っています。
- 5 野生動物が不妊となる薬の開発。
- 6 管理署職員に狩猟免許を取得させ、業務で駆除する。
- 7 現在、町村及び各機関と連携して取り組みをしていますが、未だに手探りの状況だと思っています。

- 8 地域一体となって取り組む体制づくりが必要だと思います。
- 9 冬場の農作業的な位置づけで、狩猟組合をつくってもらい、委託として狩猟をしてもらう。
- 10 国民の環境保護意識向上を促す。
- 11 狩猟者の育成と広域な個体数調整の実施。
- 12 生きたまま捕らえ飼育することで安定的に食肉を供給できる体制の整備。
- 13 狩猟免許取得について国有林職員への働きかけ。
- 14 予算を増やして実行部隊を増強するべき。
- 15 狩猟免許をもっと安価で取得出来るようにする。
- 16 鷹匠の活用。
- 17 飛騨地域には多くのスキー場や廃業したスキー場跡地があり、その大半が夏場に牛の飼育用採草地として活用しているため、これがニホンジカの食料源となっているとの意見があることを考慮すれば、採草地も周辺に柵を巡らせるなどの措置も必要ではないかと考える。
- 18 山肉や毛皮などの流通を整備し、職業で猟師が出来る地盤を作る。
- 19 防護柵等柵の周囲にくくりワナを設置し捕獲を行う。
- 20 駆除、特にわな。
- 21 いろいろな対策があると思うが、狩猟者の適正な養成を行い、個体数の調整を図ることが、やはり必要だと感じる。
- 22 食肉利用や倫理的な問題は捨て置いて殺害→埋め立てでの個体数調整を実行する。
- 23 増えすぎているので狩猟者への補助等の対策を充実する必要がある。(数を減らす必要がある)
- 24 狩猟免許を職員にとらせる。
- 25 公務員に狩猟資格を与え、狩猟及び有害鳥獣駆除を行う。
- 26 捕った鹿をペットフードとして販売し、猟師に現金収入がはいれば、もっとがんばって捕ってくれると思う。
- 27 反対がある事は理解出来るが、オオカミなどを野生に放つしかないのではと考える。
- 28 ただ捕獲して処分していると、猟師にも精神的負担が大きい。(野生動物をむやみに殺生していると感じる人もいる)
そのため活用方法の発展に力を入れて欲しい。
- 29 狩猟期間の拡大。
- 30 柵などの物理的な防除。
- 31 シカ対策は美ヶ原、南アルプススーパー林道沿いのシャープシューティングによる捕殺。高山帯で特に南アルプスでは環境省の狙撃(狩猟)に対する協力。北アルプスでは地域と連携した捕獲が必要。
現在の囲い罠では効果がないことから、今後、囲い罠を作る予定があればその経費をタズマやくくり罠による捕獲に回した方が効果が大きい。
- 32 大規模に囲いに追い込んで捕獲するしかないのではないかと。
- 33 NPOやボランティアと連携した情報収集や駆除が必要と思う。
- 34 棲み分けを行う。
- 35 極端な保護対策を取らない方が良いのではないかと。
- 36 狩猟者の数を増やす。(若手の育成)
- 37 ツキノワグマの定期的な頭数調整。(適正頭数と現状把握の見直し)(放獣をやめる)
- 38 職業猟師の育成。
- 39 棲み分けができるような森林の整備をする。
- 40 追い込み柵設置で大量一斉捕殺。(食肉利用)
- 41 シャープシューティングを行う場合の自衛隊の活用。
- 42 シカ肉、イノシシ肉について広くPRする。
- 43 密度調整のための捕獲。(食肉利用しなければ、射殺。定期的、地域的にハンターによる駆除。)
- 44 海外(欧州等)から狩猟者を受け入れる。
- 45 猟友会や罠猟などの普及宣伝活動。
- 46 ・特効薬は何も無い。マツクイムシ、カシナガキクイムシと同様に人間のできる対策は限りがある。
- 47 狩猟集団を育成し、捕獲の委託事業を行う。
- 48 農林業共通の問題として考える必要がある。
- 49 個体数を減らすしかないと思います。
- 50 捕獲。
- 51 報奨金を高額にする。
- 52 頭数調整に力を入れるべきである。
- 53 自衛隊による大量捕獲と地元による加工肉生産販売。
- 54 既に実施されている罠もありますが、職員のワナによる捕獲と猟友会、県、市町村等関係者等との連携。
- 55 徹底的に駆除。
- 56 オオカミを導入する。
- 57 狩猟者の減少に伴い野生鳥獣の被害が増加しているため、警備会社に捕獲を委託しているとのこと。(NHKで放送していた。)
- 58 シカ1頭の商品価値を高めるために食肉と合わせて皮やアクセサリー等の利用をもっと勧めても良いと思う。
- 59 スポーツシューズに牛の皮やカンガルーの皮等が使われているため、ニホンジカの皮もこういった靴等の利用に役立つのではないかと考えました。

- 60 鳥獣の専門的な知識に乏しくアイデアが出てこない。
- 61 猟友会等への助成金拡大、国、市町村が積極的にくくりワナを貸付け捕獲を拡大する。
- 62 若年層のハンターの要請が喫緊の課題であるので、高校や自然系専門学校等に狩猟科等を設置するなど、教育からはじめなければハンターは増えないのでは。
- 63 シカの駆除に報奨金を出して(1頭当たりいくらというもの)、多くの狩猟者が参入したくなるような条件を整える。
- 64 個体数を適正調整する。行動範囲が広い動物は1箇所対策措置しても別の箇所で被害が発生する。
- 65 野生動物を保護しようとしたら有効な方法は皆無。
- 66 大面積を、野生生物のためのフィールド(栗やドングリ等の樹木主体の森)を作る。
- 67 手に負えない状態で有効な方法が無い。
- 68 わな等により捕殺するしかないと思います。
- 69 第一種銃猟免許の緩和による従事者の育成。
- 70 捕殺以外ないと思う。
- 71 地元市町村との協力や北海道局で実施している狩猟者のための林道除雪の実施。
- 72 広範囲な移動をさせないような対策・防獣柵でしきる。
- 73 職員に狩猟の資格をとらせて被害防止に資する。
- 74 地域で関係機関、猟友会等が連携し、捕獲による頭数調整を行う。
- 75 駆除代(補助金)を高め設定し、退職されてる方にバンバン捕ってきてもらう。
- 76 大々的な狩猟による捕獲政策の実施。
- 77 法令を緩和し農家の人が自由に駆除出来るような仕組みに変えていく(ワナ猟とか)、昔はもっと簡易に許可が降りたのではないかと考えられます。
- 78 狩猟の活性化。
- ② 入林者 回答者数85名。
- 1 ワナを増やし捕獲。
 - 2 シカの被害を防ぐには、捕獲であり、ワナを含めた狩猟者の増が望まれます。
 - 3 狩猟者を増やす。
 - 4 禁猟区を減らすべき。
 - 5 山里整備、ハイキングコース(人が山へ入る)、鳥獣が嫌いな植物(ユーカリ等)の植栽、狩猟の推進、食肉利用の推進。
 - 6 食肉利用の促進
 - 7 食肉と狩猟費の増加。
私の畑では、イノシシ、ニホンジカ、ハクビシンの被害に遭っていて、現在金網(建設工事に使うラス網、網目5cm、鉄線径2mm、網高さ1.5m)を全周に張り対策をしている。イノシシ、シカは完全防御出来ているがハクビシンは網を登って入った形跡あり。
 - 9 木の苗を植えた時は特に木の回りに囲いをするなど幹を食べられないよう工夫をする。
 - 10 年中、捕獲が出来るようにすればいい。
 - 11 狩猟者を増やす。
 - 12 防衛策ではなく個体数を減らす策を考える。
 - 13 狩猟者を増やす。
 - 14 狩猟を増やす。
 - 15 駆除単価を上げる。猟師が生活できるくらいの駆除単価にする。
 - 16 被害が出て問題ない区域を設定し、重要な区域に被害が出ないように上記区域へ鳥獣を誘導する。
 - 17 狩猟者の育成。
 - 18 登山ブームが続いているので、狩猟ブームをまきおこす。
 - 19 人が動物を追いやっているのだから文句は言えない。
 - 20 自然、天然林の保護、自然破壊の減少。
 - 21 狩猟者の増加。
 - 22 大規模な巻き狩り。
ボランティアではない専任の駆除隊を編成し、常時巡回と捕獲を行う。過疎地域の耕作放棄地の草刈りや林縁部の草刈りに補助をする。
 - 23 縁部の草刈りに補助をする。
 - 24 駆除員を専門にする。(役所に駆除員を置く)
 - 25 集落周辺の草刈り。
 - 26 山、田、畑等を荒らさない。雑木林を増やす。
 - 27 食害の少ない苗木の生産。
 - 28 狩猟者にもっとがんばっていただき、数を減らしていく。
 - 29 もっと狩猟すればいいと思う。
 - 30 鳥獣にとって生活環境が大きく変わらないような開発が望まれます。
 - 31 駆除する。
 - 32 天然林を増やす。
 - 33 捕獲に力を入れて数を減らす。狩猟者の養成。
 - 34 狩猟ができる人材を増やす。
 - 35 狩猟として生活ができるようにする。

- 36 池ノ平湿原に入ったら大変なことだと思う。今のところ入っていない。
- 37 東御市にはまだシカは少ないと思いますが時間の問題で入ってくると思われます。池ノ平湿原に入ったら大変なことだと思っています。ワナ猟等で数を減らすしかないと思います。
- 38 食肉流通ルートの確立。
- 39 山の手入れ。
- 40 個人でワナをかける。
- 41 自衛隊により獣害防止を行えばよい。
- 42 里山をきれいにすれば出ないと思います。
- 43 ワナの増加、狩猟期間の延長。
- 44 狩猟者を増やす。
- 45 捕獲奨励金で捕獲を徹底。
- 46 ハンティングの魅力を若者に伝える。
- 47 ワナの免許取得を増やし報奨金を増額し捕獲頭数を増やす。
- 48 ワナの免許取得を促進し積極的に捕獲を推進する。
- 49 山里の整備、ハンターの養成、地域ぐるみの対策。
- 50 個体数を調整する。
- 51 緩衝帯の整備。
- 52 捕獲して頭数を調整。
- 53 駆除対策と実施。
- 54 積極的な捕獲。
- 55 狩猟者を増やす。
- 56 狩猟者、捕獲数を増やすためにも、鳥獣捕獲の経費を増やす。
- 57 民家近くの山林整備、電気柵等の設置。
- 58 ワナを普及させる。
- 59 年間捕獲頭数を調整する、山の手入れをしっかりと行う。
- 60 狩猟数を増やす。
- 61 餌工場となる場所を作る。狩猟者の数を増やす。事業体に狩猟を発注。
- 62 猟師を増やす。
- 63 狩猟者を育成して駆除する。
- 64 林内の整備が必要。
- 65 森林整備。
- 66 一斉駆除を行う。全国の動物園で飼育してもらおう。(10頭位)
- 67 高原などでヘリコプターによる捕獲、ワナ等。
- 68 個体数調整を進める。天敵を放す方法。
- 69 カモンシカはよく見かけた。
- 70 頭数調整。
- 71 三城牧場東側にニホンジカ特別保護区があるのはなぜか。
- 72 若い狩猟者を増やしたり、駆除を定期的に行う。
- 73 オオカミの導入による頭数調整。
- 74 鳥獣が生活できる環境を整備。
- 75 狩猟者や捕獲に伴う助成を強化する。
- 76 狩猟免許の取得の普及。
- 77 捕獲。
- 78 捕獲。
- 79 狩猟を増やす。
- 80 大量に捕る方法を試みる。
- 81 捕獲。
- 82 森林整備、捕獲。
- 83 シカ、イノシシ、サル、外来種を鳥獣保護法の対象種からはずす。
- 84 仕事としての有害鳥獣対策の確立。
- 85 狩猟税の軽減、道具等に対する費用の補助。

付属資料

鳥獣害対策（ニホンジカ）についてのアンケート

中部森林管理局
森林管理署

平素より、国有林野事業に対しご指導、ご協力をいただきお礼申し上げます。

さて、中部森林管理局では、重点取組事項のひとつとして深刻化しているニホンジカの被害対策を揚げ、効果的な対策、必要な対処方針等の検討をしているところです。

昨年は職員を対象にアンケート調査を行い、相応の成果が得られたところですが、今年度は、国有林に入林される皆様から幅広く、ニホンジカをはじめとする野生鳥獣による被害状況を把握するため、アンケート調査を行い、今後の取組に生かしたいと考えていますのでご協力をお願いいたします。

アンケートの対象期間：平成25年4月
～平成26年3月

提出年月日 平成 年 月 日

あなた又は貴社の所在地を教えてください。

市 町 村

あなた又は貴社の入林目的と時期（又は期間）を教えてください。

例：〇〇請負事業、〇〇の買受け、〇〇調査
（入林の時期又は期間：〇〇月～〇〇月頃）

問1 あなた又は貴社の方で、過去1年間にニホンジカを見たことがありますか。

- ①はい
- ②いいえ



問2 問1で「はい」と回答した方は具体的にどこで見ましたか。

(1)「国有林」以外でニホンジカを見た場合は具体的な場所や地名を記入してください。(複数回答可)

例：国道〇〇号線(〇〇町内)、〇〇牧場、〇〇高原

(2)「国有林」でニホンジカを見た場合は森林管理署名、国有林名(わかれば林班名)を記入してください。(複数回答可)

例：〇〇森林管理署、〇〇国有林、〇〇林班

森林管理署

国有林

林班

問3 「国有林」でニホンジカの被害を見たことがありますか。

- ①はい
- ②いいえ

問4 問3で「はい」と回答された方に伺います。それはどのような被害でしたか。

(複数回答可)

- ①立木の剥皮、食被害
- ②植栽木の食害
- ③団地的な森林の枯損
- ④高山植物の食害
- ⑤その他 ()

問5 最近「国有林」でニホンジカの頭数が増えていると思いますか。

- ①はい
- ②いいえ
- ③わからない

問10 ニホンジカの捕獲を増やすためには、食肉利用の普及を進める必要があると言われていますが、効果的な方法がありましたら、あなたのご意見、アイデアをお聞かせください。

問11 「国有林」で、最近、野生生物について何か見たり、変化を感じたりすることがありますか。

例：〇〇を見かけなくなった。〇〇が急激に増えている。

問12 鳥獣被害対策で有効な方法がありましたらあなたのご意見、アイデアをお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

☆☆☆ お問い合わせ先 ☆☆☆

中部森林管理局

ニホンジカ被害対策プロジェクトチーム事務局

連絡先 電話 IP 050-3160-6543

住所 〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5